

昭和廿年參月廿壹日

三三〇 受信一一二四譯了一五〇〇電一四三三五作概

譯始一二五〇

機密第三〇〇七〇五番電

至急

一八營備隊

航本

レ  
二

二八根戰國概報着信艦所

711

マノタワリ敵通過狀況二十九日

○六三五驅潛艇三上陸用舟艇六隻西行

○六一七一〇〇四雙發五東行三十日一二四八一

東行敵飛行機○六一七一〇〇四雙發五東行三十日一二四八一

四四〇發三東行○

通二六二四八天Bケ五(八三六七、五)二二通

藤野(松井)

0845

昭和廿年二月廿壹日

三・三〇

受信一一一

釋了—五〇〇

電一四二八八

作概

開始一一〇〇

航本

作戰繫錄

百里原航空隊

712

1/2/2

◎

第三・第五各航空艦隊尸・明治・松山各航空基地  
聯合艦隊口・木更津航空基地

機密 第三〇〇八二〇番電

發六〇一航空隊司令

(一) 昨二十九日松山移動豫定ノ飛行隊ヘ鈴鹿附近天候不良ノ爲零式  
艦載二二型一七紫電十一型三彗星一二型七明治基地ニ不時着信  
ハ所在不明 治

(二) 六〇一部隊ハ明基地ヲ中斷トシテ二七〇〇墳土佐沖ノ敵機動  
部隊ヲ攻撃セントス兵力彗星一六零式艦載三〇紫電五。  
通一六二三九呂一B・ケ五一B木更津・淺沼・飯村一

0846

昭和廿年四月廿日

三三〇 受信一二二〇五 謂了〇九〇五 電一四七二一 作概本

作戰緊急

一空術艦隊口

713

P.L.

九〇一空大村派遣隊。九〇一空

海護總口。聯合艦隊口。五航空艦隊口。八〇一空

機密第三〇〇八五八番電

「四〇電令作第三一〇號

九〇一空司令官ハ飛行艇全力（内地及台灣所在）全力飛行艇關係員全部  
 フシテ兩西現配備ノ監工事機動基地航空部隊指揮官ノ指揮ヲ承ケシ  
 ムベシ但シ右兵力中二式一機九七式一機ハ第九〇一航空隊本部ノ上海  
 轉進完了後トス。

東通註 本電問合セノ爲過延  
 通一六二六八 呂一日ケ五（一） 吳通

昭和廿年參月廿壹日

三三〇 受信一四〇一 譯了 一五四〇 聞一四三四六 作戰本  
三三〇 調始 一五〇一

作戰緊急  
九〇三空指揮官所在艦所

九〇三空

海上護衛隊口・横須・大鑑・阪橋  
第三海上護衛隊▷・橫防隊▷

機密 第三〇〇 九四五番電

714

電令作第三七號

第一第三各空襲部隊ハ攻撃準備ヲ促進シヨ爾餘、各飛行隊ハ極力戰備ヲ充實夫々所定ノ作戰ニ即應シ得ル如ク準備ヲ速ニ完成スベシ  
（GEB電令作第四號及第9〇三空命令作第五號關聯）

通一六三六一 命一四ヶ五（B） 橫須賀 石田（阿） 部一

0848

緊急

三三〇 受信一六四四 謹了〇五四三 電一四三七二 作概〇。航本

諱始〇五一〇

九〇一空東港派遣隊

博多空・九〇一空派遣隊

海上護衛總口・九五一空・護衛船隊・佐鎮

機密三〇一二二番電

715

- 一、齊藤少佐九〇一空博多派遣隊指揮官ヲ命ズ  
 二、博多派遺隊省官ハ在大村當隊水偵隊ヲ博多ニ集結速ニ作戰準備ヲ  
 完整スペシ。

酒一六四六七 呂一Bケ五一九八三〇 KC

佐二

放

清水（川口）

昭和廿年三月廿壹日

昭和廿年參月卅壹日

三三〇 受信一九一〇

電一四三七五 作概

本〇

緊急

共

符

參



海上護衛總部隊口ア各防備隊

大海參一部・軍務局・聯合艦隊口  
參謀本部・防衛總司令部・各在勤武官

船舶司令官(吳通)

716

發 E.E 參謀長

機密第三〇一一五七番電

關門方面ニ於ケル敵機ノ磁氣機雷敷設ニ鑑ミ之ガ對策トシテ要點ニ對スル防空力ノ増強掃海隊ノ編成配備ニ關シテハ中央ニ於テ自下計畫セラベツタル處右ト關聯速ニ島嶼岬角等ニ對機雷見張所ヲ十分ニ配備シ敷設位置ヲ確認安全水路ヲ確保スルヲ先決要件ト認メラルニ付瀨戸内海・北九州・釜山等ノ重要水路港灣ニ對シ左ノ諸項考慮ノ上急速整

通自二五四〇 天二八ヶ六

(一塙田)

昭和廿年三月廿壹日

電一四三八八

作機

譯了、七四〇  
受信一四一〇〇  
譯了、七四〇  
電一四三八八

三三〇

共符

65

父島根戰斷機報着信艦所

717

機密 第三〇一二三二番電

父島方面特別根據地跡戰斷機報（三月二十九日）

一〇九三〇頃數編隊及一〇一〇頃B一二四一機ノ哨戒機ラシキモノ  
電探ニ感度アリ一九四〇ヨリ三〇日〇三四六ニ至ル間六次ニ瓦リ各  
大型單機來襲外周ヲ執拗旋回ノ後侵入小湊及中央山地ニ投彈島内各  
所ニ銃擊三〇日〇〇〇〇以後ノ哨戒ヘ父島母島間ニ於テ特ニ綿密ナ

二戰果被害ナシ。

一六三六三日一〇ヶ五（一〇二〇〇EC）父道 岩田（猪狩）

T980

昭和廿年三月卅壹日



海上護衛總司令部方面艦隊・二連支艦隊・南北在勤武官  
基隆在勤武官・高砂丸

機密第二〇一二四七番電

718

高警參謀長

當方面連日ノ空襲ニ依リ第二南遣艦隊機密第二八二二一〇番電ニ對  
ノ配給不可能ノ状況ニ付支那方面艦隊機密第二九一四一三番電ノ件至  
急何分ノ取計ヲ得度。

這一六四三七

天B

(一三五二〇)

南

三月十八日

0852

三一三〇 受信一八二二二 譯了二二四〇 電一四五一一八 作纖〇  
譯始二〇五〇〇

二六一航戰

719

112

父根

通

機密第三〇一三四五番電

發 横須賀鎮守府參謀長

通報 大本營海軍參謀部第一部長 軍務局長

聟島見張所ハ見張並ニ通信連絡ニ必要ナル所定人員ヲ殘シ爾諒（電探員ヲ含ム）ハ父島ニ撤收シ差支ナキ内意ナリ。

通一六五二一 吕一Bケ五（一〇二〇〇 KC） 横特系、中野（山中）

8580

四三

一〇〇二三〇一〇〇一七〇

一〇〇二三〇一七〇

一〇〇

共  
特



皆  
極

教

音書第三〇一四四五番題

四分ノ三三

720

前田景也及後見ノ爲現在ノ所根拠ノ見込ナシ

三九九水路又鐵道ノ爲現在ノ所根拠ノ見込ナシ  
五九三一六本路都送一三一・一三七・一四一(氣象部六〇號六三  
四九八回セ〇號十二號乃西七重送時一四九)一四三・一四六(鐵  
道ウノク本ウ一二號乃西二〇號九九)一六八合時五〇號

前田景也及後見ノ爲現在ノ所根拠ノ見込ナシ

二二二天ニヨケ六(三) 佐藤 小司(五) (五石) ト

0854

0855

昭和廿年四月貳拾  
第十回

第五回  
第十回

上田 有力郎院は多賀城ノ上西本大ヲ以テ奉取スルアラタレ  
御先ノ御子ナシ者御承認御内ハハノ一反寺主八百九ノ寺主一重・  
六時(夏時)・

『御相撲也 幸運御分ノ一役固有四分ノ御榮焉』

721

海  
島

724

第三回 極東の國の風物と人情

大圖書館

圖書上院議會



圖書上院議會の一大事は、國會ノ議事ノ運営也。三者合議制の本體也。國會ノ運営ノ一大事は、國會ノ議事ノ運営也。國會ノ議事ノ運営ノ一大事は、國會ノ議事ノ運営也。國會ノ議事ノ運営ノ一大事は、國會ノ議事ノ運営也。

國會ノ議事ノ運営ノ一大事は、國會ノ議事ノ運営也。國會ノ議事ノ運営ノ一大事は、國會ノ議事ノ運営也。國會ノ議事ノ運営ノ一大事は、國會ノ議事ノ運営也。國會ノ議事ノ運営ノ一大事は、國會ノ議事ノ運営也。

國會ノ議事ノ運営ノ一大事は、國會ノ議事ノ運営也。國會ノ議事ノ運営ノ一大事は、國會ノ議事ノ運営也。國會ノ議事ノ運営ノ一大事は、國會ノ議事ノ運営也。

國會ノ議事ノ運営ノ一大事は、國會ノ議事ノ運営也。國會ノ議事ノ運営ノ一大事は、國會ノ議事ノ運営也。

海

軍

9980

昭和廿年參月廿壹日

三三〇 受信二二三一 譯了二三一〇 電一四六六三 作 機  
譯始二二三〇

二五根戰圖機報着信艦所

機密第三〇一五一五番電

二分，一

723

五 E B 戰圖機報

バボ

(1) 三月二十六日〇七一〇及〇八五〇單發各四銃擊戰果被害ナシ

(2) 三月二十七日〇七二四一〇七三五單發六銃擊擊退戰果擊墜擊破各一

(3) 三月二十八日〇四〇二B一二四 一機〇九二九單發四銃爆擊戰

果ナシ被害戰死一戰傷三。

(電信説註 電文 分ノ二未着)

通一六六一四 告一Bケ五八六一二二五 RC 三一通

牛澤（杉本）

0857

三三〇受信一九五一  
譯始二〇四五

調了一一五六

電一四五九八

作

昭和廿年參月卅壹日

緊急

九〇一航空隊  
(三亞航空基地)

九〇一航空隊△

海上護衛總司令・一護衛艦隊・海南警備府  
九三六航空隊

機密第三〇一五二五番電 二分ノ一、二

724

行

戰闘概報

一一〇四五ヨリ二九日二四各一機三亞沖ニ飛來偵察零戰四機邀擊三號  
爆彈並二銃擊ニ依リ二機共擊墜セリ  
一一〇五五ヨリ一二〇五迄日二五日二四一八機榆林地區低空爆擊不  
零戰延六機爆擊戰果ナシ地上砲火ニ依リ一機擊墜被彈二機小破  
三七八八八J船團ハ三亞岬山麓ニ避退敵ヘ船ヲ發見セザルモノ、如ク攻  
撃セズ主トシテ榆林港内施設附近爆擊船團異狀ナシ  
道一八五五九 通一六五六九 天二〇ヶ六 (四七〇五 KO) 高通

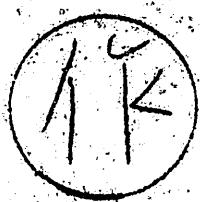
吉野・須見(原)

吳通

08580

三〇一四〇 調査了〇一五五 〇〇八三九 航作概本

九三六空本隊總派遣隊



九三六航空隊

725

機密第三〇一五三番電 二分メニ  
海上護衛經口・一護衛艦隊口。九〇一空△  
一〇方面艦隊口。一一根△。一八航戰△

宛 印支派遣隊指揮官

通報 村山 義謙 南方總軍團 鳥田 公謙 印支空司令司第二五飛行團  
三、印度支那方面水偵後方避退基地トシテ「スチュントレン」「クラチ  
エ」「ブノンベン」「バーブム」ノ準備ニ關シ一特根二八航空戰  
隊及印支空ト連絡ノ上具体的計畫ヲ定メ置クシ。

(電信課註 本電一分ノ一未着)

通 一六六一八 六二四九 (六三三五七) 一〇三編口 (三右)

昭和廿年三月廿壹日

三三〇 受信一八四五 謝了一一五〇 訂一四五七五

譯始二〇三〇

機密第三〇一五五一番電

航作概本

佐

鎮

九五一空△

付

○

海護總監・聯合艦隊・或航空艦隊・?

施スベシ作戰要領左ノ外司令官所定トス

第一、友軍作戰通信ト緊密ニ連繫作戰ス

第二、水上偵察機ノ一部ヲ古仁屋基地ニ伏勢同基地ヨリ作戰セシム他ハ現

配備基地ヨリ作戰狀況ニ依リ中繼基地ヲ使用

三、薄暮及夜間攻撃ヲ主用敵情ニ應ジ使用兵力進撃路ヲ選定確算奇襲攻

撃ニ努ム。

1980

緊  
急

三三〇 受信一八五六 謂了一九五四 電一四四三一 作概本

竹

松山航空基地  
聯合艦隊口

鹿屋航空基地

727

機密第三〇一六四二番電

發 三 AF 參謀長

制空部隊ハ敵機動部隊ガ九州方面ニ北上ヒル場合情況ニ依リ富高  
基地ヲ中繼作戦ヒタメラルル豫定ニ付行動力ノ延伸ニ關シテモ極  
力研究整備シ置カレ度・

通一七一七呂一三ヶ五（七八七五KC）一KFG放

望月（阿波）

昭和廿年參月卅壹日

三二一〇 受信二三四四五  
譯始〇四〇〇〇

諺了〇六三〇 電一四六四六

作概本〇

至多

宇佐航

728空

隊

ノイハ

七〇六空（松島空）  
築城空基地

機密第三〇一七一六番電

靈七〇六空司令

本日來襲ナシ明日計畫通り銀河隊ハ築城ニ進出セヨ一七〇〇。

連一六七一五  
四一〇ヶ五（B）  
小林（細川）

昭和廿年三月廿壹日

三二〇〇 受信一九四三 譯丁二二二〇 電一四四七七

作概

四四七八

緊急

總無線艦所用共通符號

聯合艦隊口・東・通・横・通

小笠原部隊

機密第三〇一七一八番電 一分、一、二

發 南鳥島守備部隊指揮官

着信者 橫須賀鎮守府司令長官 軍令部次長 參謀次長

受報者 第十六潛水隊司令

戰闘概報（三月三十日）

一一〇四八・二四〇度七〇杆ニ探知續イテ B一二四 十機來襲高度約

三・五〇〇米ニテ島内及海中投彈

二、發射彈數（殘彈數）

3980

729

十二吋七高角砲二三（一一四一）、八吋高角砲八（一一七〇五）、

一六五〇、一六五五、四〇〇五（五〇〇〇）南、牛津、田中（土、谷）

0864

三、戰果 ナン

四、被害 二五糸一腳裝機銃被彈（充填可能）戰死海軍下士官三名兵一名。  
傷海軍下士官三名重

(1)

三〇受信二二四六 三一譯了〇〇一五 一二四五三〇作概本  
緊急譯始二三二〇

豊橋航空隊

一〇海上機動特攻部隊・串良航空隊  
富高航空基地・七基地航空部隊

吳鎮・佐鎮・阪營・明治航空基地・香取航空基地  
茂原航空基地・木更津航空基地

機密第三〇一七五六番電 三分ノ六二

本日天空襲部隊飛行機隊發進及殘留狀況左ノ通

一、發進（一三二〇、一五〇〇、一五四〇）第一二五二航空隊零戰一二機  
第一三一航空隊 A・B 九機（雷裝ナシ）第二一〇航空隊天山九機  
二、殘留二五二空零戰五機他（一機離陸時大破搭乘員無事轟星（爆）三  
機一三一空天山二機（全）第二一〇空天山四機他（離陸時大破一機搭  
乘員無事

三、明三十一日二項殘留機全機串良又ハ富高二向ヶ明朝發ノ豫定。

通一六六五九 命一 B ケ五（ B ） 木更津

高橋（塩田）

5980

昭和廿年四月壹日

航空本部

三一、受信一五〇二、調子一九〇〇、電四九七七、作機〇

三一、開始一七四〇

参

一〇一航戦△・一〇八一空

航空本部總務部、佐々木、第五航空艦隊、元山、高麗各空基地  
横須賀、吳、鎮海、霞浦

731

機密 第三〇一八五二番電

補充用零戦行動決定左ノ事

一、完備（現有）一九（五六）

二、搭乗員二八組

（一五三空派遣隊一九六〇一空二、高一

三〇二空一、元山空五）

三、空輸機定（機數空輸隔分駆時刻行先八順）四後（〇三）〇九〇〇

富高五機（〇九八）〇九〇〇元山計九機）

四、IUEB號令作第三〇機ニ依ル零戦空輸出發機數五三機。

第一七一〇九、口一〇ヶ五（B）、横通、東（鎧）、三

9980

三三一〇 受信二二一三 譯了〇七三〇 曜一四六七二 作 摘  
譯始〇五四〇

ハジヤルマシン航空基地

東部空襲部隊戰闘概報着信艦所・三八一航空隊

二南遣艦隊「・ニニ根△

機密第三〇一八五七番電

東印空戦闘概報（三月三十日）

一三二五ヨリ一三四〇迄 B-1-24 一九機第一飛行場ニ來襲南北  
滑走路ニ六〇發被彈復舊ニ約一週間チ要ス東西ニ復舊ノ豫定ナリ  
第三八一 航空隊零戰一機邀擊セルモ戦果ナシ・

（東通註 本電誤字極多シ）

通一大六五五 呂一Bケ五（六一二二五KC）一一通

久保田（渡瀬）

昭和廿年參月卅壹日

三〇一 航空二三五〇

第一師了〇〇四五 電一四五八九

操作本機〇

第一艦橋隊

九〇一、九三六各航空隊△

機密第三〇一九一六番電

733

（付）

機密

上

證

轉口

○

ト GEB 電令作第四〇八號及第四一〇號ニ基キ新兵力ノ配備並ニ轉進要  
領ヲ定メ報告スベシ

ト 第九〇一航空隊司令官ハ遂次轉進セル兵力ヲシテ 部隊編入セラル豫  
定同作戦ニ應ズル諸準備ヲ完成セシムベシ。

四一六六〇、四一八六一、B、一與、高原（木下）

8980

三三一 受信〇三四九 譯了一一一〇 電一四七六九 作參 概

譯始〇八三〇

至急

南東方面部隊戰闘概報着信艦所

通一

734



機密第三〇二〇一七番電

R X 方面防備部隊戰闘概報第四五一號（二十七日一二九日）

一、二十七日 R X P O 六〇〇 F 四 U 十機 ○ 九一〇 F 四 U 二機 海軍農園 ○  
 九五〇 F 四 U 九機 一一〇 F 四 U 一機 偵察 海軍農園 地帶銃爆擊 ○ 九二五  
 B 二五 一機 一一〇 F 四 U 二機 二十八日 F 四 U 一三機 海軍農園  
 地帶銃爆擊 ○ 六四〇 F 四 U 二機 ○ 八〇〇 B 二五 一機偵察 二十九  
 日 ○ 五二五及 ○ 九四五 F 四 U 各一二機 陸軍地帶 ○ 五三〇 F 四 U 九機  
 海軍農園爆擊 ○ 八一五及 一二〇 F 四 U 各二機 偵察  
 二、戰果 大シ 被害甚多 四倒壊。

通一六八一九 出二日（四月九七五〇）四道放 水谷（林部）

三三三受信一一三六譯了一八一七電〇〇五〇二作概

昭和廿年四月貳日

735



機密第三〇二〇三八番電 三分ノ三

電報 次官 次長 海護總司令部 軍令部特務班 高橋 九〇一空

い右以外被害輕微

捕虜ノ言並ニ所持品ニ依レバ B一二五ハ比島ヲ基地トシアリ。

一 東 通 訂 本電作成課ニ依リ遲延ス

（電信課註 本電三分ノ一、二既配布）

一六九八七 天二〇ヶ六（一三五二〇）K（高雄 背原（木下）

三三一 譯始一〇七五〇八

譯了一〇四八 電自

至〇〇七七三〇

作概〇

171

聯合艦隊口

佐世保通信隊

三〇一  
六五五四  
三三二一  
〇五二〇

736

通電先　臺灣軍・第九軍司令官  
参考　參謀本部・支那派遣軍・聯合艦隊  
球參電八九二號其ノ六云四七  
當方面航空作戦實施ニ關シ左ノ如シ  
一、有力航空兵力ヲ以テ「上海」方面ヨリ進攻敵艦船群ヲ包囲攻撃  
二、「九州」方面「臺灣」方面「上海」方面ヨリノ航空攻撃並ニ海上  
海中ノ攻撃（主トシテ潛水艦作戦ノ次ニアラズヤト痛感

通一六七一三・一六七二五

聯合作

佐世保

岩佐・片山（酒巻）

(一)

更ニ調査ノ結果説明

一、日下敵機動部隊、「九州・臺灣」方面ヨリノ航空攻撃ヲ遮断スル如ク

（其ノ三未着以下其ノ四）

或ハ機動部隊ヲ該方面ニ向ケ牽制キウインスルコトニ依リ敵航空戦力

ノ分散ヲ強要スルヲ有利トス

二、陸海軍航空部隊海上部隊補給基地

（其ノ五六未着以下其ノ七）

尙攻撃目標ヘ正規空母戰艦中型輸送船（LST）等ヲ含ムニ徹スル

ノ可トスル意見ナリ。

（電信課註　本電其ノ三五六未着）

三一

諭始〇九三〇五

諭了二〇〇五 電〇〇七八〇

作織〇



聯合艦隊司令

北支方面總指揮官

737

キウヌ電第八七一號 其ノ三

「南九州」攻撃或ハ、「奄美・宮古・石垣」方面哨戒等ニ相當ノ兵力ヲ分散シアリ我ガ「上海」方面ヨリ攻撃スルコトニ依リ戰略的意表ミ出テ。

（電信謄註 本電真ノ一、二及四以下未着）

通一六八六五 協作 〔B〕 佐通

岩佐（深見）

4.2  
4.3

昭和廿年四月壹日

三三一 受信二〇二〇 譯了二三三〇 電〇〇〇五六 作概〇

至急

A S 三 部 隊

101 戰隊 ▶

海 上 護衛隊 □。支那方面艦隊 □。九三一航空隊 □ 戊航空基地  
九 機 鎮 部 隊 □。一 艦隊 □。佐 鎮。鎮海警備府。上海根 ▲。103 戰隊 ▶

機密第三〇一一一四番電

73

A S 三 作 命 令 第 四 號

各 哨 戒 部 隊 一 第 四 哨 戒 部 隊 ヲ 隊 ケ 指 挥 官 ハ 哨 戒 部 隊 ヲ 左 = 依 リ 哨 戒 隊 及  
掃 湧 隊 = 側 分 シ 編 成 ス ベ シ

一 哨 戒 ( 掃 湧 ) 隊 番 號

第一 哨 戒 部 隊 自 第 一 至 第 四 哨 戒 ( 掃 湧 ) 隊 第 二 哨 戒 部 隊 自 第 五 至 第 八

哨 戒 ( 掃 湧 ) 隊 第 三 哨 戒 部 隊 自 第 九 至 第 十 五 哨 戒 ( 掃 湧 ) 隊 但シ 兵 力  
多 暈 = 煙 ジ 機 宜 哨 戒 隊 及 掃 湧 隊 番 號 ヲ 附 ス

通 一 七 三 一 八

於 一 五 ( 六 七 ) K0 佐 二 放 小 鎮 守 ( 仙 田 )

4

0874

1025

二編成要領任務用法

(1) 哨戒隊ハ甲乙丙型海防艦ヲ以テ編成哨戒ヲ主任務トス

繩木二直ヲ以テ擔任哨戒哨戒ニシ任ジ敵潛出現在際ハ嚴重ナル

掃湯ヲ行フ

(2) 掃湯隊ハ主トシテ丁型海防艦ヲ以テ編成各泊地ニ分散待機敵出現

際之ガ掃湯ニ任ズ

掃湯艦ハ敵情及ビ在泊艦船ノ情況ニ應ジ逐次掃湯ヲ擴大シ已ム

ヲ得ザル場合ノ外敵未置夜連續シ行フヲ立前トス。

本  
概

二二三一○受信一二三五譯了〇四五電一四七六

三一○始

緊急

松山航空基地

七基地航空部隊戰闘概報着信艦所  
一機動基地航空部隊戰闘概報着信艦所

機密第三〇一一〇〇番電

739

三四三空戰團概報第七號

三月三十日

一敵擊紫電改延二八機敵ヲ見ズ

二索敵彩雲二機

九機

三明日ノ實動（松村搭乘員ノ順）紫電同改四七、一一〇彩雲二、九。

（東通証 本電記字多半爲過延）

一六二一八 一日午五（三之三七、五之）一九四〇

9480

昭和廿年四月壹號

三三一 受信 ○六一五

譯了 ○八五〇

電一四六九二

作概

概

至

局

急

○

人

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

機密第三〇二二〇五番電 一分ノ一二  
一機動基地航空部隊戰闘概報着信室所

740

一 K F G B 戰闘概報 (三月三十日) 二〇〇〇

三十日夜來捕捉セル四國南方海面ノ敵空母群ニ對シ早朝索敵並ニ特攻攻擊ヲ企圖セシモ八〇〇至ル玉南九州地區基、地群霧ノ爲發進不能ナ。〇九〇〇彩雲一戰闘機六ヲ以テ四國及種子島東方南方近距離ヲ索敵セルモ敵不見ズ

通一六五一  
八一四七五  
七八七五  
二九三七五  
K F G B 放

此、小林(一)矣

2480

但シ〇二〇〇銀河一機宮崎基地ノ九〇度七〇浬ニ僚機現照明中ノ艦  
 橋ナキ空母二及巡洋十隻ヲ確認セルヲ以テ昨夜機動部隊ノ北上セル  
 コトハ確實ナリ〇七五〇ヨリ〇八四〇迄ノ間敵少數機五群ヘ約一五  
 機種子島屋久島ヲ北進九州南岸ニ近接セル干侵入セス。

(2)

昭和廿年參月卅壹日

三三〇受信一一一〇〇〇〇譯了〇一二三五電一四五五六六作概〇

作戰緊急

松山航空基地

七集地航空部隊〇一機動基地航空部隊〇

吳

鎮

741

發三四三空司令

明三十一日左ニ依リ索敵ヲ實施ス

一、使用機彩雲三機

四〇度一番線一五一度三番線

二、索敵法一番線〇六三度基點足摺埼進出距離一五〇浬ニ至ラバ右二

〇測

三、發進時機一二〇。

（東通証本電誤字ノテ多シ）

通一六六九四、出一日ヶ五（三九三七五）K F G B 放長井（）

6480

昭和廿年三月廿壹日

三三〇 受信 ○三五〇 謂了〇五〇〇 電一四六七八 作機○  
作戰緊急

錫・吳 防 戰  
下 蘭 防 備 隊

742



一大海參一部・吳航空隊・大浦空基地  
護衛艦隊・門司在勤武官

機密第三〇二三〇一 者電 二分ノ一二

敵磁氣（音響）機雷敷設ニ對シ下關海峽西口航路ヲ急速ニ啓開絶體  
安全確保ノ方策トシテ左記ノ如ク實施致度ニ就キ之ガ整備ニ關シ速  
ニ實現方取計ハレ度。

(1) 大浦派遣水偵隊ヲ以テ小型爆彈（又ハ三號乃至五號發音彈）ヲ備  
海水道並ニ豫想敷設海面ニ投下機雷實施

(2) 第二手段は海船艇最小限三〇隻（潛特務艇型一〇・駆船二〇・  
五六艇）潛特務艇三式又ハ輕便式掃海具ニ依ル清掃。

六八一四

呂一三

大連

小田（杉木）

0880

昭和廿年參月卅壹日

三三一 受信〇四三九 謂了〇五一一 電一四六八二 作 機  
譯始〇五〇二

緊急

共

符

一護衛艦隊・二近支艦隊・香根△・東海西部南航路船團行動通報艦所  
海護總司令・原根△・馬根△・高橋

743

機密第三一〇〇五五證電

發 鵜來海防艦長

我自一二四一機ト交戦之ヲ堅退セリ被害ナシ北緯二三度四九分東  
經一一七度四七分。

〇〇五〇

通一六八四〇

於一四〇四七〇五九一高通 望月 一深見一

1880

昭和廿年四月壹號

三三一

受信〇五四一

譯了二〇六五電一四七五九

作

譯始〇九四〇

機密第三一〇二五二番電

作

號〇

至急

吳

通信隊



東通。一護高監隊口

744

發

第二艦隊參謀長

着信者

吳鎮司令長官

受報者

大海參一部長・軍務局長・聯合艦隊司令長官

下關防備隊・G B長官

〇〇三〇ヨリ約一時間半亘り大和ノ西方ニB-29數機行動

（視認）

三回ノ爆音（十回）一〇一三〇須大和ヨリノ二五五度遠距離約三万米附近ニ爆發音並火災ヲ認ム後數聲ノ爆震大和ノ鍋地姫島燈臺ノ三七度一四・三浬。

通一六八四七呂一三ヶ五（B）

矣

山崎（酒卷）

2880

昭和廿年四月壹日

三二一 受信〇八一〇六 譯丁〇九一五 電一四七五三 作概本

松山航空基地

東京通信隊・臺南航空基地  
機密第三一〇四三〇番電

745

午

發三二空司令

當當隊  
隊機密第  
二九一〇六四六番電  
各參謀長  
聯電  
搭乘員ハ無事生還セリ。

通一六八四六 天二〇ヶ六八 B 吳

雨宮(小株)

昭和廿年三月廿壹日

三一受信〇六五八譯了〇七一六電一四六四八作機〇

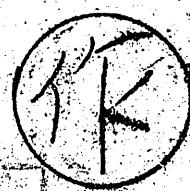
佐領區敵情着信艦

三二一設營隊

746

0884

321 32



敵艦上機四機 我下交戰中 〇六四三

通一六八六一 リサ(六七KC) 佐二放

中川(金森)